

令和7年度事業報告

1 概 況

(1) シルバー人材センターを取り巻く環境

我が国の65歳以上人口は2025年9月15日現在推計では、3,619万人で前年に比べ5万人減少したものの、総人口に占める割合は29.4%と、前年の29.3%に比べ0.1ポイント上昇し過去最高となりました。また、男女別にみると、男性は1,568万人で男性人口の26.2%、女性は2,051万人で女性人口の32.4%と、女性が男性より483万人多くなっています。後期高齢者人口は2,124万人で、総人口に占める割合は17.2%と、前年に比べ49万人増の0.4ポイント上昇となりました。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、高齢者人口の割合は今後も上昇を続け、1971年～1974年の所謂、第2次ベビーブーム期に生まれた世代が65歳以上となる2040年には34.8%になると見込まれており、超高齢社会の様相をより一層強めていくこととなります。

高齢化率の上昇と相俟って、高齢者の就業者数についても増加の一途を辿っており、2024年には930万人、65歳以上人口に占める就業率は25.7%と過去最高となっています。また、年齢階級別にみると、65～69歳は53.6%、70～74歳は35.1%、75歳以上は12.0%と、いずれも過去最高となっています。令和7年版高齢社会白書によると、現在収入のある仕事をしている60歳以上の方については凡そ3割が「働けるうちはいつまでも」働きたいと回答しており、70歳くらいまで又はそれ以上と回答した方と合計すると、凡そ8割の高齢者の方が高い就業意欲を持っている様子が見えうることから、今後も我が国の高齢者就業率は上昇していくものと予測されています。

こうした中、全国のシルバー人材センター（以下「センター」という。）の事業実績については、コロナ禍前とほぼ同様の実績に回復しているものの、未だその実績を超えられない状況にあります。一方、会員数については、令和7年に入り、コロナ禍以来で初めて前年を上回る動きがみられています。男女別で見ると、男性会員の減少が続く中、女性会員については、令和7年においても前年を上回る増加を続けており、コロナ禍前会員数をも上回っている状況です。

実績・会員数ともに回復傾向にはありますが、令和5年10月より施行されている適格請求書等保存方式、所謂、インボイス制度、令和6年11月に施行された特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律、所謂、フリーランス新法による制度改正への対応、また、本格的な人口減少や、定年延長等の影響による会員の入会年齢や平均年齢の上昇など、センター事業の運営については、経営基盤の更なる強化とともに、今後もの確な舵取りが求められています。

当センターの令和7年度実績については、会員の高齢化の進行という課題がある中で、企業や家庭からの依頼に対して的確なマッチングに努めたことから、契約件数が前年度対比で192件増の13,641件で約1.4%の増、契約金額が13億6,100万円余で前年度対比約

1.6%の増となりました。

一方、労働者派遣事業については、契約件数は令和6年度の235件に対して令和7年度は268件と約14%増、契約金額についても前年度対比約3.2%増の、1億4,900万円余でした。前年度に引き続き、東京都シルバー人材センター連合就業推進担当との連携により、保育園、あいキッズ、スーパーマーケットなど人手不足分野の職種の就業開拓を重点的に実施したことにより、受注件数が増加したことが実績の増に繋がったものです。

新入会員確保については、当センターにおいては前年度に引き続き多様な区民のライフスタイルを考慮した休日における説明会開催、女性会員増強を狙った保育セミナーを兼ねた説明会の開催、当センターと同じく高年齢者をターゲットとしているふれあい館とともに、板橋区社会福祉協議会が実施する「はつらつシニアいたばし」との共同開催で入会説明会を実施するなど趣向を凝らした結果、新入会員が460人となり、令和7年度末の会員数は3,102人と前年度より45人増加しました。新入会員を男女別にみると、男性会員223人、女性会員237人と当センターにおいても全国的な傾向と同様に女性会員が増加しています。

センターの公益社団法人としての社会的価値を更に高めるという理念の下、板橋区との共催で「Power of Music～音の花束～」イベントを開催いたしました。セミナーは二部構成で、第一部が聖徳大学音楽学部 廣川 恵理教授による「音楽と介護予防について」をテーマとした基調講演、植草学園大学非常勤講師 長島 律子先生による「能動的音楽療法の効果と実践」の講演、第二部が板橋区演奏家協会会員で構成されたQUARTET IN Qによるクラシックコンサートを実施しました。イベントは大盛況で、多くの参加者から高い評価を得ました。この他、「就活×終活×マネ活セミナー」を成増アクトホールで開催いたしました。就活部門を当センター並びにはつらつシニアいたばし、終活部門を認定終活アドバイザー資格所持会員、マネ活分野を金融経済教育推進機構（J-FLEC）専属講師がそれぞれ担当しました。また、板橋区の協力を得て区発行の「おくやみハンドブック」も参加者に進呈いたしました。

全国的に会員の高齢化が進行していることに加え、高齢者の居場所づくりが社会的な課題となっている中、当センターにおいても会員や区民の居場所としての機能をより充実させるべく、新たな独自事業「板ちょこサロン」を立ち上げ、令和8年1月30日にスタートさせました。このサロン事業は、参加者に提供する講座や体操などのプログラムの講師やスタッフについては、会員が就業し運営することが特徴です。従来の就業内容の枠組みを超えて、会員の持つ知識や経験を生かせるプログラムを組むことにより、高齢者でも無理なく就業が可能で、より能動的で魅力的な就業先の創出に繋がっていきます。また、会員が参加者の側として様々なプログラムに加わることで、仲間づくりや多世代交流を促進する効果もあり、就業率の向上や退会の抑制に繋がることが期待されます。

次に、センターの財務状況についてですが、令和7年度においても、公益社団法人としての価値を高めるため広報・普及啓発活動に力を入れました。しかしながら、令和8年10

月にインボイス制度の仕入控除割合の変更を控えており、その影響による消費税の大幅な増加を考慮しながら事業運営を図る必要があるため、東京都における自主事業新設支援事業助成金を活用するなど、収入・支出の徹底的な見直しを図りその他のあらゆる諸経費等の節減に努めた結果、当期の正味財産増減額は1,570万円余の増加となりました。

以上が令和7年度のセンター事業における概況となります。

(2) 安全就業の状況

令和7年度の東京都内全シルバー人材センター統計においては、傷害事故は749件で前年度より100件増加しています。このうち3件は死亡につながる重篤事故でした。事故の特徴としては、熱中症が35件と近年の猛暑による影響が顕著でした。一方、賠償責任事故は176件と前年度より15件減でした。

板橋区シルバー人材センターにおいては、引き続き安全就業巡回や、それに付随する研修会、委員会・連絡会活動、会報誌を活用した会員への啓発活動などを積極的に行った結果、傷害事故発生件数は31件と前年度と同じ件数でした。なお、このうち1件は派遣就業による労災事故でした。一方、賠償事故については5件で前年度より4件減少いたしました。

事故件数を減少させるために引き続きの啓発活動に加え、令和7年6月1日より熱中症の重篤化を防止するため労働安全衛生規則が改正されたことを考慮し、今後は、熱中症対策も含めた対策を講じ、会員の更なる安全就業の推進に努めてまいります。

2 会員の状況

会員の増減と就業率

令和8年3月31日現在の会員数は3,102人、平均年齢は75.7歳、最高齢は94歳です。60歳以上の板橋区民に対する会員の割合は1.9%となっています。

令和7年度の実業人員は2,097人で前年度対比56人の減、会員数に対する就業率は67.6%で同2.8ポイントの減、就業者の平均年齢は76.5歳、就業者の最高齢は94歳です。

退会者415人の退会理由については、会費未納111人、加齢75人、病気74人、就職43人、死亡25人、その他転居等による退会者が87人となっています。

令和8年3月31日現在

区 分		男 性 〔人〕	女 性 〔人〕	合 計 〔人〕	参考 板橋 区民	就業実人員内訳			参考請負＋派遣	
						就業 実人員 〔人〕	年 齢 階級別 就業率 〔%〕	合計に 対する 構成比 〔%〕	就業 実人員 〔人〕	年 齢 階級別 就業率 〔%〕
年 齢 階 級 別 会 員 数	60歳～64歳	42 (46)	66 (59)	108 (105)	33,779 (32,660)	46 (43)	42.6 (41.0)	2.2 (2.0)	52	48.1
	65歳～69歳	185 (188)	194 (180)	379 (368)	27,049 (26,733)	198 (204)	52.2 (55.4)	9.4 (9.5)	224	59.1
	70歳～74歳	433 (505)	367 (379)	800 (884)	26,602 (27,997)	532 (611)	66.5 (69.1)	25.4 (28.4)	591	73.4
	75歳～79歳	712 (659)	471 (431)	1,183 (1,090)	31,060 (29,451)	841 (809)	71.1 (74.2)	40.1 (37.6)	913	77.2
	80歳以上	423 (406)	209 (204)	632 (610)	46,781 (47,275)	480 (486)	75.9 (79.7)	22.9 (22.6)	492	77.8
合 計		1,795 (1,804)	1,307 (1,253)	3,102 (3,057)	165,271 (164,116)	2,097 (2,153)	67.6 (70.4)	100 (100)	2,272	73.2
平均年齢〔歳〕		76.3 (75.9)	74.8 (74.7)	75.7 (75.4)		76.5 (76.3)			75.7	
入 会 者〔人〕		223 (249)	237 (242)	460 (491)	入会説明会参加者 512 (578)					
退 会 者〔人〕		232 (271)	183 (174)	415 (445)	退会理由：会費未納111人加齢75人 病気74人 就職43人 死亡25人 その他転居等87人					

※（ ）内は前年度実績

※〔参考〕板橋区民は令和8年4月1日住民基本台帳による。

3 組織運営の状況

会員参画による組織運営の活動状況は次のとおりです。

(1) 総会・理事会の開催

- ①定時総会 ハイライフプラザ 2階ホール
第15回 令和7年6月25日 会員数3,048名
(出席者139名 委任状1,487名 議決権行使702名)
- ②理事会の開催 13回
(補正予算案他を審議)
- ③監査の実施

令和7年5月12日 公認会計士による監査
令和7年5月15日 監事による監査

(2) その他の機関・組織の活動状況

会員参画による事業運営を次のように行いました。

- ①安全管理委員会 4回
- ②広報委員会 会報誌「生きいき」の作成検討 5回
- ③衛生委員会 12回
- ④地区リーダー会議 5回
- ⑤地区懇談会 延395人出席 21回
- ⑥職種別リーダー会議
(有料自転車駐車場、放置防止指導業務) 各2回
- ⑦その他グループ会議等 植木職、除草職、シニアエアロビクス

4 就業等の機会確保及び提供

就業等の機会確保及び提供に関する状況は次のとおりです。

(1) 事業収入状況等

事業収入は1,361,700,819円で前年度に比べ、21,359,940円の増となりました。

そのうち公共の事業収入は631,426,624円で前年度対比17,748,860円・2.9%の増、企業等は591,640,885円で前年度対比2,440,159円・0.4%の増、個人は138,633,310円で前年度対比1,170,921円・0.9%の増となりました。公民比率ですが、公：民＝46.4：53.6となっています。

なお、新規依頼に際しては、雇用とみなされる恐れのあるものは、シルバー人材センター等労働者派遣事業で対応し、安全に就業できるものであれば、業種、規模を問わず、可能な限り幅広く受注しました。

令和7年度事業収入等の内訳

	公 共	企 業 等	個 人	合 計
事業収入 (円)	631,426,624 (613,677,764)	591,640,885 (589,200,726)	138,633,310 (137,462,389)	1,361,700,819 (1,340,340,879)
配分金収入 (円)	565,130,320 (549,662,749)	519,647,479 (517,544,946)	117,162,095 (116,178,176)	1,201,939,894 (1,183,385,871)
材料費等収入 (円)	1,804,656 (1,689,407)	308,627 (300,500)	1,371,386 (1,454,665)	3,484,669 (3,444,572)
事務費収入 (円)	64,491,648 (62,325,608)	71,684,779 (71,355,280)	20,099,829 (19,829,548)	156,276,256 (153,510,436)
契約件数 (件)	1,959 (1,717)	5,603 (5,603)	6,079 (6,129)	13,641 (13,449)
延日人員 (人)	88,262 (88,876)	123,600 (127,532)	22,662 (23,645)	234,524 (240,053)

※ 収入・件数には独自事業も含んでいます。※ () 内は前年度実績

(2) 独自事業の状況

独自事業の実績については、次のとおりです。

ソーイング事業は、区民まつり、農業まつり等のイベントに参加しましたが、事業収入は前年度対比4.2%の減となりました。シニアエアロビクス教室事業は、回数、参加人数ともに増加し、事業収入は前年度対比20.4%の増となりました。木工クラブ事業は、ソーイング事業と同様イベント参加により、事業収入は前年度対比10.3%の増となりました。

サロン事業は、新規事業として区民向け居場所支援、カルチャー教室を実施し初年度の参加人数、事業収入は下記の通りとなりました。

①ソーイング事業

就業会員13人

小物作り、お直し、オーダー等点数 1,001点 2,144,234円

(参考：令和6年度 1,193点 2,238,438円)

②シニアエアロビクス教室事業

インストラクター就業会員16人 教室319回 延7,332人参加 1,822,530円

(参考：令和6年度 教室309回 延6,513人参加 1,513,376円)

③木工クラブ事業

就業会員11人 木のおもちゃを製作、販売 519,100円

(参考：令和6年度 470,800円)

④サロン事業（新規事業）

就業会員9人 区民向け居場所支援、カルチャー教室の実施

延93人参加 55,300円

(3) 日常生活支援総合事業

事業PR、会員研修並びに就業支援を実施。

事業活動報告（開拓・PR）

- ・区内おとしより相談センター（地域包括支援センター）を適宜訪問
- ・おとしより相談センター長会議に出席し事業PRに努めた
- ・区内全事業所連絡会会員となり事業所間連携の強化に努めた

(4) 労働者派遣事業

令和7年度は、私立保育園園長会での事業PRや板橋区と連携し「あいキッズ」事業者連絡会にて事業PRを行いました。これに加え、東京しごと財団就業推進担当から就業開拓支援があったことから保育園、あいキッズ、スーパーマーケットから業務依頼が増加した結果、契約件数・延日人員・契約金額は前年に比して増加しました。

契約件数268件 延日人員23,591人 契約金額149,068,562円

（参考：6年度 契約件数235件 延日人員22,783人 契約金額144,429,783円）

(5) 社会貢献・ボランティア活動状況

ボランティア活動の実績は、次のとおりです。

- ①「いたばし子ども見守り隊」 年間活動延人員87人
- ②東京マラソンランナー応援イベント TOKYO CHEER 2026 観客案内 4人

5 就業機会の適切なコーディネートと公平化

就業機会の適切なコーディネートと公平化に関する取組は次のとおりです。

(1) 就業相談の実施

会員の就業機会を的確かつ効率的に拡大するため、特に就業希望者登録説明・選考会を引き続き実施しました。

- ①事務局内において来所者に対する就業相談 常時
- ②個別就業相談会 5回（5, 8, 10, 12, 2月） 相談者 延7人
- ③就業希望者登録説明・選考会

（有料自転車駐車場、学童擁護、施設管理、自転車放置防止業務、放課後学童クラブ、保育園周辺、スーパーマーケット、植木・除草）

延15回（5, 8, 10, 12, 1, 2月） 参加者 延124人

（参考：令和6年度 参加者 延190人）

(2) 就業機会の公平化と長期就業を是正するための就業期間制限

①対象職種

地域センター 児童館 小学校来校者受付 ものづくり研究開発連携センター
有料自転車駐車場 自転車保管所 ウエルネススペース 地域集会室

②実施状況

定年	2人
職種グループ内就業期間満了	11人
同一就業場所就業期間満了（施設間異動）	22人

③その他 学童擁護（交通安全指導）については順次、複数体制に移行

6 会員の安全対策

前年度に引き続き、令和7年度においても就業中や行き帰りの事故が多く発生しています。「安全就業手帳」を配付することで安全意識の向上に努めました。また転倒予防教室、普通救命講習を実施し健康意識の向上を支援しました。更に、全会員に対して熱中症対策グッズを送付しました。

①安全管理委員会	年4回
②「安全就業手帳」配付	2,500部
③入会時に「安全10カ条」パンフレット配付	
④転倒予防教室及びフレイル予防講座	地区懇談会21地区356人参加
⑤普通救命講習	1回 12人参加
⑥会報誌「生きいき」に毎号「安全通信」を掲載	年5回
⑦安全就業用被服の貸与	
⑧熱中症対策グッズの配付	
⑨脚立を点検	
⑩安全管理委員・支援員の安全就業巡回（春季・秋季）	10人65カ所

7 会員に対する研修

会員の資質の向上を図るため、以下の研修を実施しました。

①入会説明会・接遇研修	4～3月	512人参加
②会員研修「ハラスメント対策研修」	12月 9回	587人参加
③植木剪定研修	2～3月	延75人参加
④植木剪定個別指導研修	4～3月	延222人参加
⑤第3ブロック役員研修 「食と健康について」	練馬区 2月	8人参加
⑥第3ブロック安全就業研修 「シルバー会員が安全に働き続けるための7つのヒント」	新宿区 9月	10人参加

8 広報・普及啓発活動

センター事業の広報・普及啓発活動は次のとおりです。

(1) センターのホームページによるPRの他、次のような広報活動を行いました。

- | | |
|--|-----|
| ①「広報いたばし」センター事業（エアロビクス教室他）参加者等募集記事 | 3回 |
| ②「広報いたばし」入会説明会募集記事 | 2回 |
| ③板橋区施設等にパンフレットを配布 | |
| ④板橋区民まつり・農業まつり・高島平まつり他地域まつりへ参加
(10, 11, 3月) | 延6日 |
| ⑤区庁舎イベントスペースにおける展示販売（5, 12月） | 延5日 |
| ⑥町会掲示板広告スペースへセンター広告を掲載 | 通年 |
| ⑦町会連合会等関係団体会報や、板橋区が発行する情報誌に広告掲載 | 延7回 |
| ⑧バスラッピングを活用した広告活動 | 通年 |
| ⑨区庁舎内総合インフォメーション並びにシティマップナビタに広告掲載 | 通年 |
| ⑩会報誌「生きいき」の発行 | 6回 |
| ア 第219号4月25日号 イ 第220号7月25日号 ウ 第221号9月25日号 | |
| エ 第222号11月25日号 オ 第223号1月25日号 | |
| カ 特別号(Power of Music 音の花束イベント周知) | |

(2) シルバー人材センターの公益社団法人として社会的価値を更に高めるべく「生きいきとしたシニアライフを過ごすために」をテーマとした「Power of Music 音の花束イベント」を令和7年12月16日に文化会館小ホール及び大会議室にて実施いたしました。

・来場者171名（来賓含む）

第一部（講演）

- | | | |
|-------|---------------------------|-------|
| ・基調講演 | 聖徳大学音楽学部 教授 | 廣川 恵理 |
| ・講演 | 植草学園大学非常勤講師 | 長島 律子 |
| ・休憩 | クッキー試食、フレイル測定会、10の筋トレ運動体験 | |

第二部

題名のないクラシックコンサート 弦楽四重奏 Quartet INQ

(3) 情報公開

ホームページを活用し、公益社団法人として公開すべき情報の他、就業情報、活動情報等を公開しました。

9 調査研究

魅力あるセンター作りのために今後どのような周知・広報活動を行うことが有用かを把握するためのアンケート調査を実施しました。

- ・調査方法 「Power of Music 音の花束」イベント会場において、
来場者に対するアンケート調査を実施。
来場者171名中134件の回答がありました。

10 その他の事業運営の状況

事業運営上のリスクに備えて加入している保険は主に次のとおりです。

主な保険の加入状況

①シルバー人材センター総合保険(継続加入)

ア 保険料 9,130,170円

(保険料内訳：傷害7,584,540円 賠償1,545,630円)

イ 保険適用 (保険金支払いが確定した件数及び金額)

傷害事故 26件 1,161,000円 内令和6年度事故分 9件 819,000円

賠償事故 6件 506,304円 内令和6年度事故分 3件 191,134円

②役員賠償責任保険(継続加入)

ア 保険料 140,000円 填補限度額 5千万円

イ 7年度中の保険適用なし

③サイバー保険(継続加入)

ア 保険料 111,220円 賠償限度額 1億円 諸経費費用限度額 3千万円

イ 7年度中の保険適用なし

11 その他

事務局の状況

令和8年3月31日現在 事務局長1名 その他の常勤職員10名 一般業務職員1名
その他の嘱託職員18名となっております。

事業報告の附属明細書

令和7年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

公益社団法人板橋区シルバー人材センター 会長 吉田 光夫